

シミット (Schmidt) は黄道光を薄明現象によつて説明して居り、グラフ (Graff) はこれを氣象學的黄道光として天文學的黄道光と區別して、氣象學的現象を赤道附近の上層大氣の隆起であるとしてゐる。

これ等の事實を究明するには尙多くの観測を要する。私は黄道光観測の際、出來得る限り薄明の観測に心がけた。これは又、先に書いた<sup>1</sup>流星の光度曲線と上層大氣<sup>1</sup>中に述べた上層大氣の異常層に關係ある何等か興味ある事實が得られるかも知れないので、今後も観測を行ひたいと思つてゐる。

尙ほ、光度計による観測より、肉眼には殆んど感じない微光の薄明<sup>2</sup>が、かなり早くから東天にあらはれることを知つた。これは黄道光の肉眼観測には殆んど妨げとはならない位のものである。

### 5. 黄道光帯、枝狀光帯

一般に黄道光よりも淡いこれ等の光帯は、観測事實も少く、黄道光との關係も詳らかでない。何れも極めて微光であるため、より鋭敏な光度計を必要とする。

太陽説か？ 地球説か？ 黄道光に關する理論は未だその歸するところを知らない。今後もつと多くの、より精確な観測が、これを解決してくれるであらう。

黎明の左手！ (Dawn's Left Hand!) 莊嚴な光の手が明朝も吾々を招いてゐる。

---

## メートル法の叫び！

明1934年の七月から愈々“メートル法”の強制的實施期に入らんとする今、突如として、東京の一角から<sup>1</sup>メートル法の實施延期<sup>1</sup>の叫びが聞え、之れに續いて、メートル法の是非に關する多くの言説が現はれるに至つた。

この問題について、我等同好の士の態度は、理論は、論據は、主張は、抱負は、希望は、はたして何であるか？